

んだすな

マナノサト 2014-one-

わたしたちはひとつになる



館代松陽高校、館代高校、館代西高校の3高校の美術部員約50名の合同による「アートパフォーマンス」

9月20・21日の両日、抜けるような青空のもと、音楽やアート、食などの分野で活躍する地域の人たちが一堂に会し「マナノサト 2014-one-」が館代河畔公園で開催されました。

主催：マナノサトプロジェクト（代表：落合康友さん）
ステージではライブイベントや郷土芸能が披露され、ブースではこだわりの料理やオーガニック野菜、おしゃれなハンドメイドの雑貨等が並び、またノルディックウォーキング体験も行われ大勢の家族連れで賑わっていました。

特にスペシャルイベントとして地元高校生美術部によるアートパフォーマンス、バスケット大会等はひとときわ盛り上がりを見せていました。

なく必然的に2年間そういう境遇となりました。助成金に依存しなくても、確固たる信念があれば知識や財源、後見がなくても目的を実行できることを地域の人たちに示したい気持ちはあります。



ノルディックウォーキング



小物のお店「鳥籠展」



混合チームによる
3on3大会

落合さんは、このイベントを開催するキッカケとして、若者たちの県外流出に歯止めがきかず、また一度県外に出たひとたちが帰りたくても来れない現状や若者がいなくなることが地方衰退の大きな要因と述べ、いろいろなものとの“つながり”が失われてきていることも起因していると話されました。

◇目的は？

マナノサト（愛の里）イベントを通して一人でも多くの人に「自分の故郷が好き」と想ってもらうこと。そのために故郷の伝統・文化・自然といった魅力を再認識し、世代や業種を超えて地域の人々のつながりを深められるイベントを必要と考えました。

◇協賛金にしたのはなぜですか？

助成金を使わないことに特段こだわりがあるわけでは

◇2年目の今年、成果と課題は？

県内外から102の個人団体が出店出演参加、両日述べ3,461人という目標を超える集客に成功しました。来場者からは「今までにないイベント」「来年以降も続けてほしい」との好評価をいただきました。様々な地域の参加者同士の交流や新しく出会った人たちが運営スタッフに加わったりとつながりの輪が広がっています。今後の課題もそのつながりの輪を広げ、かつ深めること、新たな才能を持った人材等を発掘していくことです。

◇これからについて

年に一度のビックイベントとしてマナノサトは継続していきます。この二年間で培った人のつながりを活かし新しいプロジェクトも始めたいです。若者たちが活動できる場、地域の人たちとのコミュニティーを形成する場として、中心市街地の空き店舗を利用した拠点づくりを計画中です。

◇この活動の原動力は何ですか？

純粹に自分と仲間たちが本当の意味で楽しく暮らしていける愛しい故郷「マナノサト」を創りたいだけです。人間ひとりひとりに果たすべき使命があります。一度きりの人生を後悔したくないだけです。

県北キャリア甲子園の“今”

昨年度1月25日、県北地域の小中高校が取り組む「キャリア教育」を地域が積極的に応援するきっかけを作ることを目的に、「県北キャリア甲子園」を開催しました。

「食」をテーマに取り組む11校が参加し、秋田県内企業（21社）、NPO（19団体）による「商談会」が実施され、具体的な協力や連携の「芽」が多数生まれました。

今年度は参加した小中高校に、活動の進捗状況等を伺っていきたくと思っています。

今回は秋田県立能代松陽高等学校と能代市立能代中学校、能代市立浅内小学校にお伺いしました。

秋田県立能代松陽高等学校

日本の茶の北限である「桜山茶」を活用した紅茶（ひやま紅姫）の加工と販売に取り組んでいます。

キャリア甲子園でマッチングした㈱アートシステムには、生徒の思いを形にしたパッケージやシール等の作成の協力。

能代観光協会の協力を得て8月3日（日）のイベント「天空の不夜城」に参加することになり、紅茶販売のデビューをしました。生徒たちが試飲を振る舞いながら100袋販売し来場者からは好評でした。

また9月20日（土）に行われた「マナノサト2014」にも参加し、ここでも好評を得て両日ともに完売しました。収益は桜山茶の伝統・保存の活動費に充てています。

商品は機械を使わず生徒たちが全部手作業で行うため、とても良いものが出来るのですが数が出来ないのが今の課題です。

現在は楽天㈱や横手市の林泉堂㈱と提携し、能代の特産品を使用したラーメンを制作中です。楽天市場から12月に販売予定です。お楽しみに！



おしゃれなパッケージに入った自慢の紅茶ができました！



マナノサト2014にて、美味しい紅茶いかがですか？
ビジネス情報部
あきんど部門の生徒さん達

能代市立能代東中学校

地域の納豆を生かした町おこしに協力しています。

7月の初めに「元祖桜山納豆(株)」の工場を訪問し、生徒たちで作成した「なっとうさんシール」を張った納豆パックを、能代市内の多数のスーパーに置かせていただきました。

7月13日の「歴史の里桜山・納豆まつり」では、生徒たちが考えた納豆キャラクターを被ってまつりを盛り上げました。

またオリジナル商品の「納豆の磯辺揚げ」を来場者に振る舞い、他にも10種類の納豆レシピを一緒に差し上げ来場者から喜ばれました。



- なっとうさんファミリー
- ・納父（なっとう：
ひやま つとむ）
- ・ひやま まめよ
- ・だいすろう
- ・こつぶちゃん



キャラクターを被って盛り上げました！

能代市立浅内小学校

ふるさとの良さを考える学習から「白神ねぎ」の元々の名称である「能代ねぎ」を、昨年度から学校農園で栽培しています。

9月19日（金）に有ねぎっこ村を訪問し、代表の方からねぎの歴史や種類、特徴、育て方等を詳しく教えていただきましたので、これを活かしてそれぞれ児童が自分のテーマに沿って学習中です。

栽培したねぎは学校行事の「なべっこ会」に提供する予定です。また11月に開かれる「学習発表会」で来場者に販売します。

能代ねぎのPR方法や販売等、これからも協力して頑張っていきます。

調べれば調べるほど奥が深い「ねぎ！」です。



INFORMATION

(株)フェリシモ「とうほくIPPOプロジェクト」第4期募集 『締め切り：10月31日』

□対象となる活動

- ・東日本大震災による被災地（人々、街、産業）を元気にする事業活動

□詳細

<http://www.akita-kenmin.jp/docs/2014101000034/>

□対象者

- ・個人、グループ、団体など形式を問いません、責任者、主体者が女性であること。（活動メンバーに男性が含まれる場合も認めます）
- ・営利団体、非営利団体は問いません
- ・事務局による情報収集や、第三者から推薦された個人・団体等も対象とします。
- ・プロジェクトを遂行する能力を有し、支援金を管理する能力を備えた個人・団体。
- ・被災地に密着した取り組みができる個人・団体とし、活動主体者の所在地が、東北地方や被災地にあることに限定します。

□制度内容

原則として1対象につき30万円～最大300万円までを上限

□連絡先

(株)フェリシモ 本社広報グループ

TEL：078-325-5700 FAX：078-325-5725

E-mail：press@felissimo.co.jp

第1回地域のチャレンジャー応援フォーラム ～食の魅力を発信する女性たち～

◇ 地域を発信する女性たち

9月26日（金）北秋田市交流センターで、北秋田地域振興局主催の「地域のチャレンジャー応援フォーラム」を開催しました。若者の地元定着に向け、地元で頑張りがちながら地域の食材等の魅力を発信している4名の方々が事例発表をしました。

4人の方に共通しているのは、地域の資源を新たな視線で認識したうえで、自分の得意を活かす形でチャレンジし、それをホームページやソーシャルネットワーク等を利用して情報発信をしていることです。

一人でも多くの人に、自分の故郷はこんなにすごいんだよ、ということに気付いてほしい。自分の故郷を好きになってほしい。そうすれば新たにチャレンジする機会が無限に生まれてくるのでは、という思いが伝わってきました。



左から 秋田県教育庁北教育事務所 佐藤主事、福田さん、田部井さん、山本さん、栗山さん

- ・福田 由佳さん：「ポランカフェ」

家族が経営する牧場で生産されるチーズを多くの人に味わってもらいたいとカフェをオープン。地産地消に取り組んでいます。



- ・田部井順子さん：「ベーカリーサンドリヨン」

ご主人の仕事の関係でサハリンに駐在した経験から、帰国後、本場ロシアの伝統の味を多くの人々に伝えたいと、ロシアパン店をオープン。田部井さんは時代の動向を見て取り組むことが大事と話されました。

- ・山本 瞳さん：八森よめこ漁業

全く経験のない職業から漁師の嫁になって7年。素人ゆえに漁師たちにない発想でブログを始め、商品販売に繋げています。現在は漁師のお母さんたちと「しょつつる」の販売を手掛けています。



- ・あきた森の宅配便：栗山奈津子さん

仕事がないなら作ればいいじゃない！恩師に言われた言葉から、秋田の山菜のインターネット販売を始める。若い世代の人には、田舎には何も無いではなく、自分の地元を他県にアピールして連れてくるくらいの気持ちであってほしい、と話されました。

すてっぷ STEP UP!! 市民活動

第4回

市民活動相談業務担当の
高坂翔です。



意外と大事な 広報活動

大変だけれど大事な活動



日々、目の前のミッションで忙しい中、取り組むのは大変ですが、NPO にとっては欠かすことのできない大事な活動が『**広報**』です。

NPO における広報の目的は、団体が活動するために賛同者を多く得ることです。そのためには、活動を知ってもらうことが前提となります。なぜなら、NPO が活動をしていくために必要な、『だれかにボランティアや会員として参加してもらう』のも、『寄付や会費で支援してもらう』のも、その取り組みを知ってもらわないことには始まらないからです。

3つのポイント

「なにを」「誰に」「どんな手法で」



広報は活動を知ってもらうだけではなく、“活動を理解してもらい、反応を得る”ことが目標です。よりポジティブなコミュニケーションを生むツールとするために、的確に伝えることで、より理解してもらい、反応してもらう工夫が必要となります。

そこで考えなければいけないことは「**なにを**」、「**誰に**」、「**どんな手法で**」知らせるかです。右上の表にまとめてみました。

何を	伝えたいメッセージ、意見、方針、主張、情報など	団体の理念、社会に向けて問題提起、理解を得るための呼びかけを明確かつシンプルに！
誰に	だれに知ってほしいのか明確にする	【市民】 会員、サービス利用者、ボランティア、支援者（寄付者）、潜在的な支援者、地域住民、有識者など 【企業・団体】 地元企業、NPO、CB、CSR、行政、マスコミ、地域メディアなど
どんな手法で	理解しやすい表現で効果的な方法・ツールを使って	【紙】 パンフレット、チラシ、活動成果等の報告書、行政の広報、地域のフリーペーパー、新聞、情報誌、アンケートなど 【インターネット】 ホームページ、メール、メールマガジン、ソーシャルネットワーク(SNS)など 【人・場所】 テレビ・ラジオ等のマスコミ、公民館など、地元企業、地縁団体など

受け手(読み手)の立場を考える

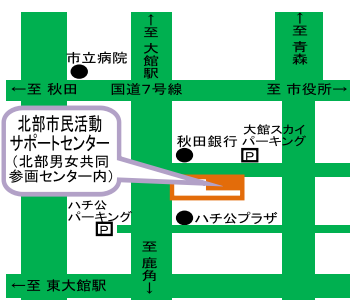


チラシや情報誌などを一生懸命準備したとしても、読んでもらえなければ意味がありません。**情報を受けとる読み手には時間がない**場合があると考えることが必要です。時間がない中でも、読んで(見て)もらえるような工夫を考えることが大切です。

読み手の立場に立ったわかりやすい言葉や写真だけでなく、問題を一緒に考え解決していこうという姿勢が NPO の活動を理解してもらえる第一歩です。



『んだすな』には、人と人が
願いを共感し、協力し合えたら
という想いが込められています。



編集：北部市民活動サポートセンター
〒017-0842

秋田県大館市宇馬喰町 48-1

- TEL. 0186-49-8553
- FAX. 0186-49-8589
- <http://www.akita-kenmin.jp/north-support-center/>
- E-mail angec1@io.ocn.ne.jp